

SUPER FORMULA RACE REPORT

10.10_[fri] - 12_[sun]

[weather] sat 雨 / sun 曇り

[spectators] 発表なし

Rd.11-12 SUZUKA CIRCUIT >>>>>>>> NOV 21-23



FULL SPEEDWAY

**TOM'S**



**Round9 でサッシャ・フェネストラズが優勝。
坪井翔も2位に入り、TEAM TOM'Sが
SUPER FORMULAで10年ぶりの決勝1-2位達成。
Round10は濃霧の影響で決勝は中止となる。**

2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権 Round9・Round10 が10月11日(土)・12日(日)に富士スピードウェイで行われた。雨のなかで行われた Round9 はセーフティカーの先導でレース開始を試みたが、天候の回復が見込めず二度にわたって中断。結局、12周で途中終了となり、ハーフポイントでサッシャ・フェネストラズが優勝。坪井翔が2位に入り、SUPER FORMULAにおいてTOM'Sとしては10年ぶりのワンツーフィニッシュを飾った。Round10は濃霧により、決勝は中止となった。

VANTELIN
TEAM TOM'S

1

Driver 坪井 翔

Rd.9
予選 2位
決勝 2位
Rd.10
予選 7位
決勝 中止

Rd.9	予選 Q1	P1 (B Gr) / 1'32.725
	予選 Q2	P2 / 1'34.123
	決 勝	P2 / 2'42.018
Rd.10	予選 Q1	P2 (B Gr) / 1'22.754
	予選 Q2	P7 / 1'22.551
	決 勝	中止

VANTELIN
TEAM TOM'S

37

Driver サッシャ・フェネストラズ

Rd.9
予選 1位
決勝 1位
Rd.10
予選 18位
決勝 中止

Rd.9	予選 Q1	P3 (A Gr) / 1'32.330
	予選 Q2	P1 / 1'33.967
	決 勝	P1 / 2'41.743
Rd.10	予選 Q1	P9 (A Gr) / 1'24.307
	予選 Q2	-
	決 勝	中止

Rd.9 予選 天候:雨/気温:17℃/路面温度:20℃

決勝 天候:雨/気温:17℃/路面温度:19℃

QUALIFYING



約2ヶ月のインターバルを経て開催された今季2度目の富士大会。金曜日のフリー走行はドライコンディションだったが、土曜日は朝から雨模様となり、ウェットコンディションでの予選となった。前戦で2位を獲得したフェネストラズは、Q1Aグループを3番手で通過すると、Q2でも徐々にペースを上げていた。終盤にアクシデントが発生して途中終了となったが、1分33秒967で自身初のポールポジションを獲得した。ランキング首位の坪井もQ1Bグループをトップで通過し、Q2で2番手を獲得。TOM'Sの2台が最前列を独占した。

RACE



36周で争われる決勝もウェットコンディションで始まった。天候を考慮して、セーフティカーの先導のもとスタートを切ったが、雨量が徐々に多くなり、6周目には赤旗が出され、レースは中断された。

およそ30分の中断を経て、セーフティカーの先導でレースは再開するが状況は好転せず、再び赤旗中断。天候の回復が見込めないことから、レースは途中終了になることが決まった。これにより、フェネストラズが今季初優勝を飾る。坪井が2位に入り、TOM'Sとしては2015年の開幕戦(アンドレ・ロッテラー、中嶋一貴)以来、約10年ぶりの決勝ワンツーフィニッシュを飾った。

Rd.10 予選 天候:曇り/気温:20℃/路面温度:23℃

決勝 中止

QUALIFYING

前日の雨は止んだが、コースの一部に水たまりが残っているなかでRound10の予選が始まった。Q1Aグループから出走したフェネストラズは、前日に優勝した流れを活かしたいところだったが、タイヤを温めている最中に水たまりに乗ってスピン。さらにタイムアタック中にもミスがあり、大きくタイムロスし、9位敗退となった。

一方の坪井はQ1Bグループを2番手で通過し、Q2でも上位を狙える気配があった。しかし、ライバルも手強く次々とタイムを更新。坪井は渾身の走りでトヨタエンジンユーザー最上位につけ、7位で予選を終えた。



RACE

14時05分から決勝レースに向けたコースインが始まる予定だったが、直前になって突然サーキット全体が濃い霧に覆われた。状況の回復を待って、スタート時刻を遅らせる措置がとられたが、この日は湿度が高かったことに加えて、風がほとんどなかったことも影響して霧が晴れることはなく、15時35分に決勝レースの中止が発表された。

これにより、坪井はランキング首位を維持したまま、2年連続ドライバーズチャンピオンをかけて最終の鈴鹿大会に臨む。また、Round9で2台がポイントを稼いだことでチームランキングも2位に浮上した。



TOM'S

1

レースができなかったことは残念。
チャンスはあったと思います。

ドライバー 坪井 翔

Round9に関しては、できればレースをしてフルポイントが欲しかったですが、安全上の問題ですし、後ろの方は視界が良くなかったと思うので仕方がない判断だったと思います。Round10の予選は持てる力を全て出しましたが、ライバルが手強かった。次戦もそう簡単にはいかないかもしれませんが、昨年は2戦連続で2位を獲得しているので、チャンスを見出していきたいです。

37

Round9 はとても良い日だった。
夏の富士で変えたことが
良い方向に向かっている。

ドライバー サッシャ・フェネストラズ

7月の富士大会の日曜にセットアップの方向性を変えてから、とても乗りやすく、良い方向に解決できたと感じています。今までは1号車(坪井)との差がありましたが、それも近づいてきています。予選が良い結果に終わったこともあり、実力を感じることができました。このようにトップに戻れたことを本当に嬉しく思っています。最近、家族の一人が亡くなったので、今回の優勝はその人に捧げたいです。



監督
館 信秀

決勝でワンツーフィニッシュというのは本当に久しぶりで、最近の我々にとっては夢のような結果です。37号車が苦勞していた時期もありましたが、やはり同じチームで2台を走らせている以上は、両方とも同じような位置にいてほしいという思いがあるので、Round9の結果は大変良かったです。Round10の中止は残念ですが、これだけの濃霧だと仕方がありません。次戦の鈴鹿大会でチャンピオンを目指して、しっかりと戦っていきたいと思います。

次戦もたくさんの応援をよろしくお願いいたします。



V バンテリン

